

[084_03] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1901721>

出版情報：法政研究. 84 (3), 2017-12-14. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：





九州大学教授 土井政和 先生

土井政和先生は、一九五二年五月に愛媛県で生まれ、一九七六年に九州大学法学部卒業後、同大学院の修士課程、引き続き博士課程に進学、刑法学・刑事政策学の泰斗井上祐司教授の指導の下、刑事政策学の研究者としての道を歩めることになった。九州大学法学部には、一九八一年に助手として採用され、一九八五年一〇月に助教（刑事政策講座）、一九九二年七月に教授とられた。

土井先生の研究領域は、研究方法論から、犯罪原因論、刑事制裁論、処遇論に至るまで、刑事政策学の全般にわたっている。中でも最初の公刊論文である「犯罪者援助と社会復帰行刑（一）（二完）」（一九八四年、一九八五年）、「社会的援助としての行刑（序説）」（一九八四年）以来傑出した業績をあげてこられたのが、行刑法と更生保護法である。国際比較や歴史分析、実態調査の手法を駆使し、基礎理論の構築から応用問題、政策的提言にまで至る網羅的かつ体系的な土井理論の枢要となるのは、権利論に裏打ちされた社会復帰の理念とそれを支える社会的援助である。それが、国際比較としても先端にあることは翻訳書である『ドイツ行刑法』（二〇〇六年）に、現実の刑事政策においても重要課題となっていることは研究書である『更生保護制度改革のゆくえ』（二〇〇七年）、『非拘禁的措置と社会内処遇の課題と展望』（二〇一二年）などに示されている。日本犯罪学会や日本更生保護学会において長年にわたり理事を務められるなど、学会活動でも多大な貢献を果たされてきた。

教育面では、故郷瀬戸内地方の気候を思わせる温かなお人柄の先生の下に、多くの学生が集まった。学部における刑事政策、法科大学院での刑事処遇論の講義では映像教材の活用に、演習授業ではフィールドワークや模擬裁判に取り組まれるなど、先生の講義は常に工夫で満ちたものであった。また、大学院の授業では、ドイツ語や英語の文献の丁寧な講読を通して、一字一句たりとも疎かにしない姿勢を後進に伝えられた。誰に対しても分け隔てなく、傾聴の上で懇切かつ和やかに時間をかけて対話される先生を師と仰ぐ者は、学内外、さらには国内外を問わず多く、学界や法曹界をはじめ各界で広く活躍している。

大学の管理運営に目を転じて、先生が果たされた貢献は大きい。学務委員長や研究室主任、副研究院長等の要職を経て、二〇〇九年四月から二〇一一年三月まで、研究院長・学府長・学部長を務められた。大学を取り巻く社会的・政策的な状況が激変していく中、部局運営の舵取りを完全に果たされた功績は計り知れない。

この度、土井先生が定年退職を迎えられるにあたり、長年のご功勞に心より感謝申し上げますとともに、先生のますますのご健勝とご活躍を祈念して、ここに本号を献呈する次第である。